

生涯大学校に係る検討について

平成23年11月14日
健康福祉部高齢者福祉課

1 千葉県生涯大学校について

○目的

高齢者の自己啓発と社会活動への参加による
生きがいづくり

○体制

昭和50年開校 2年制

(開校以来の卒業生約3万3千人)

県内5学園6校舎(11の施設)に

約3,500人が学ぶ

一般課程:福祉科、生活科、園芸科、陶芸科

専攻課程:社会専攻科、園芸専攻科、陶芸専攻科

通信課程:福祉生活科

○管理運営

平成17年度まで (財)千葉県福祉ふれあい財団へ
運営委託

平成18年度から 指定管理者制度により
(株)ハリマビシステムへ管理運営委託



2 背景

急速な高齢化

- ・高齢者人口の増加
千葉県の高齢者人口は約130万人(22年4月)、H27年には約160万人に(県民の4人に1人が65歳以上)
- ・要介護高齢者も20万人増加

地域社会の支え合いの脆弱化

- ・単独世帯、夫婦のみの世帯の増加
- ・家族や地域社会における人と人の絆の弱まり

社会環境の変化

高齢者の意識の変化

- ・地域住民の助け合いの重視
- ・定年後の地域活動への参加意欲の高まり

3 課題

(千葉県社会福祉審議会の意見)

- ① 開校以来35年を経過し、生涯大学校に期待される社会的な役割と、事業の内容との不整合
- ② 学生や卒業生への社会活動の参加支援に対する取組が不十分
- ③ カリキュラムが、社会環境の変化や高齢者のニーズに適合したものになっていない
- ④ 休校日の空き教室の活用が十分ではない
- ⑤ 学生一人当たりの経費が比較的高く、人件費割合が高いなど経営効率が悪い

4 検討内容

基本的考え方

- ☆地域の一員として地域づくりに必要な知識実践力の習得を促進
- ☆市町村との連携
- ☆卒業後、地域活動に円滑に参画できるよう支援

検討方向

- ・修業年限の短縮
- ・通信課程の廃止
- ・定員の適正化
- ・カリキュラムの再編
- ・その他(校舎の有効活用等)

5 スケジュール(案)

- 23年7月 ニーズ調査・カリキュラム等検討
- 10月 指定管理者の選定(24年度)
- 11月 平成24年度入学生募集(現行制度)
- 24年3月 マスタープラン公表
- 6月 条例改正
- 10月 指定管理者の選定(25年度から)
- 11月 平成25年度入学生募集(新制度)
- 25年4月 新制度の生涯大学校開校